

特 集

コロナ禍を経験した文系学生のオンライン授業における意識と課題

ーオンライン授業と対面授業の比較からー

本 多 薫

1 はじめに

新型コロナウイルス感染症 (Covid-19) の感染者数が日本国内でも増加し、2020年4月7日に新型インフルエンザ等対策特別措置法 (平成24年法律第31号) 第32条第1項の規定に基づき、7都道府県に緊急事態宣言が発出された。その後、全国的な感染拡大が続き、2020年4月16日に緊急事態措置を実施すべき区域が全都道府県に変更された。文部科学省は、「令和2年度における大学等の授業の開始等について」の文章を出し、新型コロナウイルス感染症の拡大を見込んで、令和2年度の教育研究活動の開始に向けた準備を行うことを各大学に求めた (令和2年3月24日) [1]。さらに緊急事態宣言の区域が全都道府県となったことから、文部科学省は、「遠隔授業等に係る留意点及び実習等の授業の弾力的な取り扱い等について」と題した事務連絡を大学等に通達した[2]。この事務連絡では、特例的な措置として、面接受業に相当する教育効果を有すると大学等が認めたものについては、面接受業に関わらず、自宅における遠隔授業や、授業中に課すものに相当する課題研究等 (遠隔授業等) を行うなど、弾力的な運用を行うことも認められることを示した (令和2年5月1日)。各大学においても、新型コロナウイルス感染症の感染防止のために、遠隔授業 (以下、オンライン授業) に切り替えて授業を行う準備に追われた。文部科学省は、2020年5月20日時点で、国立大学では、遠隔授業78校 (90.7%)、面接・遠隔を併用8校 (9.3%)、面接受業0校 (0%) を実施したと報告している (令和2年5月27日) [3]。

山形大学においては、文部科学省と大学本部からの授業準備の指示に従い、2020年度前期授業実施に向けての人文社会科学部教員向けガイドライン (暫定版、2022年4月5日) を作成し、既にWebClass (日本の大学向けに開発された学習管理システム (註1)) を全学で導入していたために、このWebClassを活用したオンライン授業への切り替え準備を行うとともに、学生の自宅等でのオンライン授業を履修するためのパソコン所有の有無や通信環境、現時点での所在地などの調査を実施した。さらに、オンライン授業を実施する上での講義資料の著作権に対する対応やリアルタイムでのオンライン授業を実施するためのツールとして、ZOOM (オンライン会議システム) のライセンスの配布準備などが進められた。そして、2020年5月11日以降の教育における山形大学の方針「原則としてオンライン授業とする。ただし、ネット環境のない学生に対して一部

教室の開放等の対応を行う。各学部長・研究科長の判断により、原則として6月1日から資格試験等に必要面接での実験・実習と卒業・修了に必要な卒業研究や特別研究等を認める。」が示され、新型コロナウイルス感染症の感染防止のために、オンライン授業が開始された。開始後も、オンライン授業の実施では、各教員の試行錯誤を繰り返し、一部の演習、実習・実験などでは、感染対策を講じながら、対面授業も併用しながら2020年度の授業が実施された。2021年度は、宮城県での緊急事態宣言の発令が5月5日まで延期されるなど、新型コロナウイルス感染症の感染終息が見えず、前期と後期ともに、「原則オンライン授業」を維持し、一部の演習・実習や卒業研究の指導などでは、対面授業を併用しながら、授業が実施された。また、2022年度前期と後期ともに、「対面授業」に戻し、授業を実施することにしたが、一部の授業ではオンライン授業で実施された。また、学生に感染者が出た場合には、対面授業からオンライン授業に変更して、授業を継続する事例も見られた。さらに、学生や教職員の感染者増による大学入学共通テスト等の入学試験業務への影響が懸念されたことから、基盤教育（教養）では、2023年1月11日から1月18日の授業は全面オンライン授業、専門教育では、2023年1月11日から1月13日は原則オンライン授業の方針に従い実施された。この調査が実施された1月後半からは、ほとんどの授業が対面で実施されていた。

新型コロナウイルス感染症の感染を抑止ことと大学教育の中断を回避するために、オンライン授業等への移行を短時間で整えることに迫られた。このような状況でオンライン授業等を余儀なくされた大学生の学生生活（遠隔授業、経済状況、悩みなど）を把握するために、文部科学省は、「新型コロナウイルス感染症に係る影響を受けた学生等の学生生活に関する調査（令和3年3月5日～27日に全国の無作為に抽出した学生約3000人（有効回答者1744名））を実施して公表した（令和3年5月25日）[4]。この調査結果では、令和2年度後期に履修した授業のうち、「オンライン授業が多かった」と「オンライン授業がほとんど・すべてだった」と回答した学生は、79.5%であった。また、オンライン授業に「満足」と「ある程度満足」と回答した学生は、56.9%であり、逆に「あまり満足していない」と「満足していない」が20.6%であった。オンライン授業の良かった点として、「自分の選んだ場所で授業が受けられる（79.3%）」、「自分のペースで学修できた（66.1%）」と回答した学生は多い一方、オンライン授業の悪かった点として、「友達などと一緒に授業が受けられず、寂しい（53.0%）」、「レポート等の課題が多かった（49.7%）」、「質問等、相互のやりとりの機会がない・少ない（43.9%）」、「対面授業よりも理解しにくい（42.7%）」などのオンライン授業の課題も明らかにしている。この調査は、全国の国公立大学（短期大学を含む）を対象としているが、山形大学と同規模の国立大学である熊本大学が実施した遠隔授業等に関するアンケート調査[5]では、遠隔授業の受講環境は、パソコンで受講した学生が96%、遠隔授業で使用した通信環境は、自宅（下宿）等のプロバイダー契約やWi-Fiがあった学生は97%であり、県外からの入学者が多い国立大学である熊本大学（註2）では、オンライン授業を受講する環境がある程度、整っていたと思われる。一方で、オンライン授業

は、「目が疲れる (62%)」, 「集中力が続かない (60%)」ことや、オンデマンド型と同時双方向型のどの方法がよく学べるかとの質問では、「授業の特性によって異なるため1つには選べない (36%)」が最も多くの学生が回答している。また、東海大学が実施したオンライン授業に対する理系学生の意識調査[6]では、理系学生と文系学生では、ICTに対するリテラシーや受講環境に相違があり、学生の意識にも相違が生じる可能性を述べ、学習効果、集中力が向上したと感じている学生は文系の学生よりもさらに理系学生は少ないことや、対面授業を支持する学生は、理系学生は文系学生よりも、その傾向がより明確であることなどの理系学生と文系学生では差異があることを明らかにしている。

上記で取り上げた文部科学省や熊本大学の調査では、理系・文系の学生の区別は行っておらず、また、東海大学の調査で、理系学生と文系学生では意識が異なる可能性の指摘や、熊本大学の調査において、よく学べる遠隔授業の方法（オンデマンド型、同時双方向型、ハイブリッド型）は「授業の特性によって異なるため1つには選べない」と回答した学生が多い（回答率36%）との報告がある。理系と文系では授業の特性が異なる可能性もあり、文系学生のオンライン授業に対する意識を調査して、今後のオンライン授業を実施する上での課題を明らかにする必要がある。

そこで本研究では、コロナ禍でオンライン授業と対面授業の両方を経験している人文社会科学部の文系学生を対象に、オンライン授業の受講環境、オンライン授業と対面授業の比較、オンライン授業でのリアルタイムとオンデマンドの差異から、オンライン授業における文系学生の意識を調査し、今後の人系学部のオンライン授業の課題を明らかにすることを目的とする。

2 調査方法

山形大学人文社会科学部附属安全安心価値創造研究所のプロジェクト研究として、「コロナ禍の学生生活調査に関するアンケート」を人文社会科学部1年生から4年生を対象に2023年1月18日から2月10日に実施した（註3）。コロナ禍でのオンライン学習に関連する質問は20問であり、オンライン学習環境、オンライン授業と対面授業の比較、オンデマンドのオンライン授業での学習時間帯、オンライン授業に適していると思われる授業と適していないと思われる授業、成績評価などの学生の意識を質問した。回答者数444名（男性186名、女性253名、その他5名）であり、1年生130名、2年生129名、3年生113名、4年生70名、その他2名）であった。

3 調査結果

3.1 オンライン授業環境について

表1に普段から使用しているデバイスを聞いた結果（複数回答）を示す。ノート型パソコンが87.4%、スマートフォンが83.1%である。また、表2にオンライン学習で主に使用しているデバイスを聞いた結果を示す。オンライン学習では、ノート型パソコンが78.4%、タブレットPCが8.6%、デスクトップ型パソコン4.5%の合計91.5%であり、一方、学習にスマートフォンを使用

している学生は7.9%である。表3に示す自宅（大学に通学している住居）で使用している通信環境を聞いた結果（複数回答）では、無線ルータ（Wi-Fi）が94.4%，有線（光通信やADSL）が10.1%であり、自宅にネットワーク回線はないと回答した学生は、0.2%（1名）である。

表1 普段から使用しているデバイス（複数回答）

デバイス	回答率（人数）
デスクトップ型パソコン	6.8% (30)
ノート型パソコン	87.4% (388)
タブレット PC	14.9% (66)
スマートフォン	83.1% (369)
その他	2.0% (9)

表2 オンライン学習で主に使用しているデバイス（1つ選択）（N=444）

デバイス	回答率（人数）
デスクトップ型パソコン	4.5% (20)
ノート型パソコン	78.4% (348)
タブレット PC	8.6% (38)
スマートフォン	7.9% (35)
その他	0.7% (3)

表3 自宅（大学に通学している住居）で使用している通信環境（複数回答）

回線	回答率（人数）
有線（光通信や ADSL）	10.1% (45)
無線ルータ（Wi-Fi）	94.4% (419)
スマートフォンのデザリング	6.3% (28)
自宅にネットワーク回線はない	0.2% (1)
その他	0.0% (0)

3.2 オンライン授業と対面授業の比較について

3.2.1 学習効果や集中に対する意識

表4にオンライン授業の中で対面授業と比較して、学習効果が上がったと思う授業を聞いた結果を示す。学習効果が上がったと思う授業が「多い」と「やや多い」と回答した学生は28.6%，一方、「やや少ない」と「少ない」と回答した学生は31.8%である。同じくらいと回答した学生は、39.6%である。表5にオンライン授業と対面授業と比較して、授業の学習効果はどちらが

高いかを聞いた結果を示す。オンライン授業の方が「高い」と「やや高い」と回答した学生は19.6%，一方，対面授業の方が「高い」と「やや高い」と回答した学生は48.6%である。同じくらいと回答した学生は，31.5%である。

表4 オンライン授業の中で学習効果が上がったと思う授業 (N=444)

選択肢	回答率 (人数)
多い	8.3% (37)
やや多い	20.3% (90)
同じくらい	39.6% (176)
やや少ない	23.2% (103)
少ない	8.6% (38)

表5 オンライン授業と対面授業との学習効果の比較 (N=444)

選択肢	回答率 (人数)
オンライン授業の方が高い	6.8% (30)
オンライン授業の方がやや高い	12.8% (57)
同じくらい	31.5% (140)
対面授業の方がやや高い	31.3% (139)
対面授業の方が高い	17.6% (78)

表6にリアルタイムのオンライン授業は，対面授業と比較して，集中して受講できたかを聞いた結果を示す。受講に「集中できた」と「やや集中できた」と回答した学生は23.2%，一方，受講に「集中できなかった」と「やや集中できなかった」と回答した学生は42.1%である。表7にオンデマンドのオンライン授業は，対面授業と比較して，集中して受講できたかを聞いた結果を示す。受講に「集中できた」と「やや集中できた」と回答した学生は40.8%，一方，受講に「集中できなかった」と「やや集中できなかった」と回答した学生は33.8%である。リアルタイムとオンデマンドでのオンライン授業を比較すると，オンデマンドの方が，集中できたと回答する学生が多く，リアルタイムの方が，集中できなかったと回答する学生が多い傾向にある。

表6 リアルタイムのオンライン授業は集中できたか (N=444)

選択肢	回答率 (人数)
集中できた	6.8% (30)
やや集中できた	16.4% (73)
同じくらい	34.7% (154)
あまり集中できなかった	34.7% (154)
集中できなかった	7.4% (33)

表7 オンデマンドのオンライン授業は集中できたか (N=444)

選択肢	回答率 (人数)
集中できた	18.7% (83)
やや集中できた	22.1% (98)
同じくらい	25.5% (113)
あまり集中できなかった	27.0% (120)
集中できなかった	6.8% (30)

表8にオンデマンドのオンライン授業を受講した時間帯を聞いた結果を示す。「15時から18時」が52.0%で最も多く、次いで「21時から24時」が44.6%、「18時から20時」が43.7%であり、午後から夜に受講している学生が多いことがわかる。

表8 オンデマンドのオンライン授業を受講した時間帯 (複数回答)

選択肢	回答率 (人数)
9時から12時	34.5% (153)
12時から15時	41.7% (185)
15時から18時	52.0% (231)
18時から21時	43.7% (194)
21時から24時	44.6% (194)
24時から3時	8.8% (39)
3時から6時	2.5% (11)
6時から9時	2.5% (11)

3.2.2 オンライン授業での学習時間や良かったこと・悪かったこと

表9にオンライン授業での学習において、対面授業と比較した総学習時間（予習，復習，課題提出なども含め）と，教員とのコミュニケーションの機会，教員への質問の差異を聞いた結果を示す。総学習時間は，オンライン授業の方が，「多い」と「やや多い」と回答した学生は42.6%，

一方、「やや少ない」と「少ない」と回答した学生は18.2%である。また、教員とのコミュニケーションの機会は、オンライン授業の方が、「多い」と「やや多い」と回答した学生は7.0%、一方、「やや少ない」と「少ない」と回答した学生は64.0%である。教員に質問しやすかったと思うオンライン授業は、「多い」と「やや多い」と回答した学生は25.9%、一方、「やや少ない」と「少ない」と回答した学生は38.0%である。

表9 オンライン授業の中で対面授業との比較 (N=444)

	多い	やや多い	同じくらい	やや少ない	少ない
総学習時間が増えたと思う授業	10.8% (48)	31.8% (141)	39.2% (174)	11.7% (52)	6.5% (29)
教員とのコミュニケーションの機会が増えたと思う授業	2.0% (9)	5.0% (22)	29.1% (129)	25.5% (113)	38.5% (171)
教員に質問しやすかったと思う授業	6.3% (28)	19.6% (87)	36.0% (160)	18.0% (80)	20.0% (89)

カッコ内は、回答した人数である。

表10に対面授業と比較してオンライン授業で良かったことを聞いた結果を示す。「通学時間がかからない」が89.2%で最も多く、次いで、「自宅で学習できる」が85.1%、「自分のペースで学習できる」が84.9%である。移動や学習場所以外の学習に関するものでは、3割強の学生が、「復習が何度もできる」が37.2%、「課題などのデータ管理がしやすい」が32.9%と回答している。また、表11に対面授業と比較してオンライン授業で悪かったと思うことを聞いた結果に示す。3割以上の学生が、「復習や課題を後回しにしてしまう」が35.6%で最も多く、「自宅だと授業に集中できない」が34.2%、「レポート等の課題が多い」が33.1%、「開始・終了のメリハリがない」が31.2%、「教員ごとに使用するシステムが異なる」が、30.9%と回答している。

表10 対面授業と比較してオンライン授業で良かったと思うこと (複数回答)

良かったと思うこと	回答率 (人数)
通学時間がかからない	89.2% (396)
自分のペースで学習できる	84.9% (377)
自宅で学習できる	85.1% (378)
教室移動がない	47.7% (212)
復習が何度もできる	37.2% (165)
教室より集中できる	14.6% (65)
情報スキルが高まる	4.1% (18)
教員に質問しやすい	12.4% (55)
教材がわかりやすい	14.4% (64)
対面授業より理解しやすい	12.4% (55)
自分の選んだ場所で学習できる	51.8% (230)
課題などのデータ管理がしやすい	32.9% (146)
教員に会わなくて済む	5.6% (25)
感染リスクが低い	45.9% (204)
その他	0.5% (2)
良かったことはない	0.2% (1)

表11 対面授業と比較してオンライン授業で悪かったと思うこと（複数回答）

悪かったと思うこと	回答率（人数）
自宅だと授業に集中できない	34.2% (152)
音声や動画が途切れる	31.1% (138)
開始・終了のメリハリがない	32.2% (143)
教員ごとに使用するシステムが異なる	30.9% (137)
対面授業より単調に感じてしまう	25.7% (114)
他の受講生と交流やディスカッションが少ない	27.9% (124)
復習や課題を後回しにしてしまう	35.6% (158)
他の受講生の学習ペースがわからない	16.9% (75)
ノートを取らない	9.9% (44)
教員に質問しにくい	11.0% (49)
対面授業より理解しにくい	10.4% (46)
レポート等の課題が多い	33.1% (147)
通信環境が不十分	7.9% (35)
教員からのフィードバックが少ない	9.7% (43)
学習のペースがつかみにくい	16.9% (75)
その他	2.0% (9)
悪かったことはない	6.8% (30)

3.2.3 オンライン授業に適している授業と適していない授業

表12にコロナ禍での経験からオンライン授業に適していると思う授業を聞いた結果を示す。オンライン授業に適しているものとして、「基盤教育の講義」が79.5%、「専門教育の講義」が51.4%と講義科目を回答する学生が多く、逆に「実習・実験」が1.4%、「演習・ゼミ」が6.8%と回答する学生が少ない。また、「オンラインに適した授業はない」と回答した学生は6.8%（30名）である。次に、表13にコロナ禍での経験からオンライン授業に適していないと思う授業を聞いた結果を示す。オンライン授業に適していないものとして、「演習・ゼミ」が61.3%、「語学」が61.0%、「実験・実習」が49.3%と演習や実習を伴う科目を回答する学生が多い。

表12 オンライン授業に適していると思う授業（複数回答）

デバイス	回答率（人数）
語学	17.8% (79)
基盤教育の講義	79.5% (353)
専門教育の講義	51.4% (228)
演習・ゼミ	6.8% (30)
実習・実験	1.4% (6)
その他	2.9% (13)
オンラインに適した授業はない	6.8% (30)

表13 オンライン授業に適していないと思う授業（複数回答）（N=444）

デバイス	回答率（人数）
語学	61.0(271)
基盤教育の講義	6.8%(30)
専門教育の講義	22.5%(100)
演習・ゼミ	61.3%(272)
実習・実験	49.3%(219)
その他	0.5%(2)
オンラインに適していない授業はない	3.8%(17)

3.2.4 疲労感, 孤立感, 不安感に対する意識

表14に対面授業とオンライン授業と比較して疲労感を聞いた結果を示す。「対面授業の方が疲労感をやや感じた」と「対面授業の方が疲労感を感じた」と回答した学生は、59.9%であり、逆に、「オンライン授業の方が疲労感をやや感じた」と「対面授業の方が疲労感を感じた」と回答した学生は、14.7%である。「同じくらい」が25.5%である。

表14 オンライン授業と対面授業の疲労感（N=444）

選択肢	回答率（人数）
オンライン授業の方が疲労感を感じた	6.8%(30)
オンライン授業の方が疲労感をやや感じた	7.9%(35)
同じくらい	25.5%(113)
対面授業の方が疲労感をやや感じた	28.8%(128)
対面授業の方が疲労感を感じた	31.1%(138)

表15に対面授業とオンライン授業と比較して孤立感を聞いた結果を示す。「オンライン授業の方が孤立感をやや感じた」と「オンライン授業の方が孤立感を感じた」と回答した学生は、47.9%であり、逆に、「対面授業の方が孤立感をやや感じた」と「対面授業の方が孤立感を感じた」と回答した学生は、6.8%である。「同じくらい」が45.5%である。

表15 オンライン授業と対面授業の孤立感 (N=444)

選択肢	回答率 (人数)
オンライン授業の方が孤立感を感じた	23.4% (104)
オンライン授業の方が孤立感をやや感じた	24.5% (109)
同じくらい	45.5% (202)
対面授業の方が孤立感をやや感じた	3.8% (17)
対面授業の方が孤立感を感じた	2.7% (12)

表16に対面授業とオンライン授業と比較して不安感を聞いた結果を示す。「オンライン授業の方が不安感をやや感じた」と「オンライン授業の方が不安感を感じた」と回答した学生は、36.7%であり、逆に、「対面授業の方が孤立感をやや感じた」と「対面授業の方が孤立感を感じた」と回答した学生は、12.0%である。「同じくらい」が51.4%である。

表16 オンライン授業と対面授業の不安感 (N=444)

選択肢	回答率 (人数)
オンライン授業の方が不安感を感じた	10.1% (45)
オンライン授業の方が不安感をやや感じた	26.6% (118)
同じくらい	51.4% (228)
対面授業の方が不安感をやや感じた	7.0% (31)
対面授業の方が不安感を感じた	5.0% (22)

3.2.5 成績評価と履修状況

表17にオンライン授業の中で、対面授業と比較して、成績が正当に評価されたと思う授業を聞いた結果を示す。「同じくらい」と回答した学生が68.9%である。「やや多い」と「多い」と回答した学生が21.6%であり、「やや少ない」と「少ない」と回答した9.5%よりも、2倍強多い結果である。

表17 オンライン授業の中で成績が正当に評価されたと思う授業 (N=444)

選択肢	回答率 (人数)
多い	7.2% (32)
やや多い	14.4% (64)
同じくらい	68.9% (306)
やや少ない	7.0% (31)
少ない	2.5% (11)

表18にオンライン授業の中で、対面授業と比較して、途中で履修を止めたり、単位取得をあきらめた授業を聞いた結果を示す。「まったくない」と回答した学生が84.7%、「やや少ない」と「少ない」と回答した学生が6.3%である。表19の授業を途中で放棄した理由（自由記述）では、放棄した理由を回答（入力）した26人の内、課題を提出しなかった（自己管理を含む）、授業欠席や能力不足・単純に内容が難しいなどの学生側の理由が半数の13名である。また、放棄した理由で、質問を送っても返ってこなかった、資料を読むだけで取り組む気が起きなかった、自分のペースが狂ってしまったなどオンライン授業であることが原因と思われる理由を挙げていたのは13人であった。

表18 オンライン授業の中で履修を止めたり、単位取得をあきらめた授業（N=444）

選択肢	回答率（人数）
多い	0.7% (3)
やや多い	3.6% (16)
同じくらい	4.5% (20)
やや少ない	2.0% (9)
少ない	4.3% (19)
まったくない	84.7% (376)

表19 授業を途中で放棄した理由

授業を放棄した理由
<p>（学生側の理由（自己管理を含む））13名 「ZOOM 授業で自分の知り合いが出席しなくなり、まあいいかと思ってたら授業出席日数が足りなくなったとき」、「レポートの提出期限を見間違えた」、「何度も授業を受けたり、課題を提出したりするのを忘れてしまった」、「課題が他の授業の課題に埋もれて忘れてしまっていたので」、「課題の管理や操作ミスによるもの」、「課題の出し忘れで規定の出席回数に足りなくなってしまったから。課題のだし忘れで多いのは、17時提出になっている授業。24時だと思ってやろうとしたら17時提出で既に過ぎていたという状況で出し忘れやすい」、「後回しにして課題の期日に間に合わなかった結果、欠席回数が6回を超えたから」、「集中が散漫になり課題の未達成が続いてしまった」、「単に自分の能力不足」、「単純に内容が難しい」、「内容が難しそうだと感じたため」、「勉強時間の自己管理ができず、課題を提出できなくなったから」、「毎週提出の課題が長期休暇期間も web クラスから提出しなくてはならないという事に気づかず、出席日数が足りなくなった」</p> <p>（オンライン授業であることが主な理由）13名 「オンライン上では理解しづらい内容であったり、課題が非常に多かったりしたため」、「わからなくても友達と相談しながら受けるということが出来なかったから」、「課題で求められているような回答が分かるようになるまで授業の内容を理解できなかったから」、「課題の内容が分からず、質問を送っても返ってこなかったから」、「課題提示の内容がとても理解出来ず、諦めざるを得なかった」、「課題提出で出席をとっていたため、授業自体は受講していても、自分で学習ペースをつかめず、課題を提出していなかったために出席が足りなくなった」、「教材が入手出来なくてついていけなくなったため」、「教授への質問の手段がメールしかなく、返事が何週間も後になる事があったから」、「資料を読むだけの授業で、取り組む気が起らなかった」、「自分のペースが狂ってしまった」、「内容が難しく、毎回の課題も多くてついていけなかったから」、「毎週の課題についていけなくなった。やる気が尽きてしまった」、「毎週課題が出されるにつれ、ついていけなくなったから」</p>

4 考察と課題

4.1 オンライン授業環境について

オンライン学習で主に使用しているデバイスは、ノート型パソコンが78.4%、タブレットPCが8.6%、デスクトップ型パソコン4.5%であり、パソコン(PC)でオンライン授業を履修している学生は、91.5%であった。また、自宅にネットワーク回線はないと回答した学生は、444名中1名のみであった。山形大学では、入学時(1年次)のオリエンテーションにおいて、学生に個人用パソコンの所有に関する文章を配付し、スマートフォンやタブレット端末では十分に学習に活用できないことや、授業で教員からパソコンを使用する旨の指示があった場合には、持参できるように事前に準備することを説明するとともに、授業で必要なパソコンの仕様(推奨スペック)に提示し、個人用パソコンの所有を促している。しかし、今回の調査からオンライン授業で、スマートフォンを主に使用していると回答した学生が7.9%(444名中35名)いることが明らかとなった。他大学においても、スマートフォンでの受講は画面が小さいために講義資料や動画が見づらい可能性があり、パソコンを使用することを学生に指示している大学[7]や、タブレット端末やスマホでは、一部の機能が制限されていたり、操作が煩雑な場合があり、PCと併用することを推奨している大学[8]など、スマートフォンの使用を禁止してはいないが、パソコンでの受講を推奨している。課題として、スマートフォンは画面サイズが小さいために講義資料が見づらいことや、使用できない機能があり、オンライン授業を履修する時には、スマートフォンではなく、パソコン(PC)で受講することを学生に周知する必要があると思われる。

4.2 オンライン授業と対面授業の比較について

4.2.1 学習効果や集中に対する意識

オンライン授業と対面授業と比較して、対面授業は学習効果が「高い」と「やや高い」と回答した学生は48.6%である。逆にオンライン授業の方が学習効果が「高い」と「やや高い」と回答した学生は19.6%であり、約2.5倍の学生が対面授業の方が学習効果が高いと感じている。薦田[9]は、学習内容が複雑になるほど、学生は教員とのコミュニケーションを必要とすると指摘している。今回の調査結果の「学習効果」と「教員とのコミュニケーション」の項目について順位相関係数(Spearman)を算出した結果、両者の間に相関が認められた($r_s=0.322897$, $p<0.01$)。また、「学習効果」と「質問のしやすさ」の項目について順位相関係数を算出した結果、両者の間に相関が認められた($r_s=0.372716$, $p<0.01$)。すなわち、対面授業の方が学習効果が高いと回答した学生は、オンライン授業は教員とのコミュニケーションや質問がしにくいと回答する傾向にある。課題として、オンライン授業では、教員とのコミュニケーション不足が起きることが指摘されている[10]が、学習効果を高めるためにも、学生と教員との双方向性や質問のしやすい環境を構築する必要があると考えられる。

リアルタイムのオンライン授業は、対面授業と比較して、集中して受講できたかを聞いた結

果では、受講に「集中できた」と「やや集中できた」と回答した学生は23.2%に対して、受講に「集中できなかった」と「やや集中できなかった」と回答した学生は42.1%であった。リアルタイムとオンデマンドでのオンライン授業を比較しても、リアルタイムは、集中できなかったと感じている学生が多い。オンデマンドでは、教員から提供された資料や教科書等を用いて、学生が自ら学習を行い課題に回答する形式の授業が多く、積極的な学習行動（集中）が求められる。一方、リアルタイムは、情報機器（ノート型パソコンなど）の画面を見ながら、教員の講義を聞く形式が多かったと推察される。仙波ら[11]は、学生の集中力を高める講義として、学生は鉛筆を動かし、教員は学術的内容を充実させ、緊張感をもって授業を実施し、双方向コミュニケーションを積極的に取り入れた授業展開が重要であると述べている。リアルタイムのオンライン授業であったとしても、学生の表情や反応が見えにくいことなどから、どうしても教員からの一方の講義になることが多い。さらに受講している学生間の対話も十分に確保できない場合もあり、受講に集中できなかったと感じている学生が4割強になったのではないと思われる。

4. 2. 2 オンライン授業での学習時間や良かったこと・悪かったこと

オンライン授業での学習において、対面授業と比較してオンライン授業の方が総学習時間が多くなったと回答した学生が42.6%であった一方、少なくなったと回答した学生は18.2%であり、約2.3倍の学生は総学習時間が増えたと感じている。また、対面授業と比較してオンライン授業で良かったことは、「復習が何度でもできる (37.2%)」で、オンライン授業で悪かったことは、「レポート等の課題が多い (33.1%)」であった。文部科学省が全国の大学等を対象に実施した学生生活に関する調査[4]では、オンライン授業の悪かった点として、「レポート等の課題が多かった (49.7%)」、「対面授業よりも理解しにくい (42.7%)」が報告されている。また、熊本大学が実施した遠隔授業等に関するアンケート調査[5]では、「レポートや課題が多すぎて、全てをこなす時間がない (55%)」が問題である点（懸念）として報告されている。山形大学（人文社会科学部）以外の他大学においても、対面授業と比較してオンライン授業の方がレポート等の課題が多く課されていたと推察される。教員側としては、学生に学習を促すことや学習成果を確認する必要があることから、レポート等の課題を対面授業よりも多く課す傾向がある。豊田[12]は、遠隔授業の導入によって学習時間が延びたのは、課題の増加が影響したと考えられると述べている。学生としては、オンラインで提供される教材や指定された教科書を何度も学習（復習を含む）する行動が必要となり、結果的に総学習時間が増えたと感じている学生が多くなったと考えられる。

4. 2. 3 オンライン授業に適している授業と適していない授業

オンライン授業に適していると思う授業は、「基盤教育の講義 (79.5%)」や「専門教育の講義 (51.4%)」の講義科目であり、オンライン授業に適していないと思う授業は、「演習・ゼミ

(61.3%)」や「語学 (61.0%)」であると回答していた。序論でも紹介した東海大学が実施したオンライン授業に対する理系学生の意識調査[6]において、理系学生と文系学生では、ICTに対するリテラシーや受講環境に相違があり、学生の意識にも相違が生じる可能性を指摘している。今回の調査対象とした山形大学人文社会科学部(文系学部)は、文学・歴史、心理、外国語・文化、経済、経営、法律などの学問分野で構成されている。理系学部の演習では、測定機器、実験装置やコンピュータを用いた内容が多いが、人文社会科学部の演習では、文献輪講や事例紹介、解説などの授業が多い(註4)。また、語学の授業では、単に外国語を読む・書けるだけでなく、外国語による言語運用能力(コミュニケーション能力)の向上を目指している(註5)。そのため、文系学部の演習や外国語の授業では、教員と学生とのリアルタイムの対話(ディスカッション)に重点が置かれている。今回の調査で、教員とのコミュニケーションの機会は、オンライン授業の方が、「多い」と「やや多い」と回答した学生は7.0%に対して、「やや少ない」と「少ない」と回答した学生は64.0%であった。また、リアルタイムのオンライン授業は、対面授業と比較して、集中して受講できたかを聞いた結果では、受講に「集中できた」と「やや集中できた」と回答した学生は23.2%に対して、受講に「集中できなかった」と「やや集中できなかった」と回答した学生は42.1%であった。「演習・ゼミ」や「語学」は、オンライン授業に適していないと感じている学生が6割を超えている理由として、対面授業と比較してオンライン授業では、教員との対話(ディスカッション)が十分ではなかったと感じているためではないかと推察される。

4.2.4 疲労感、孤立感、不安感に対する意識

対面授業とオンライン授業と比較して疲労感を聞いた結果は、「対面授業の方が疲労感をやや感じた」と「対面授業の方が疲労感を感じた」と回答した学生は、59.9%であった。教室での対面授業は、教員や受講生が同室で学習している環境であり、常に見られているという一定の緊張感を持続するために、オンライン授業よりも疲労感を感じる学生が多いのではないと思われる。また、対面授業とオンライン授業と比較して孤立感を聞いた結果では、「オンライン授業の方が孤立感をやや感じた」と「オンライン授業の方が孤立感を感じた」と回答した学生は、47.9%であり、逆に「対面授業の方が孤立感をやや感じた」と「対面授業の方が孤立感を感じた」と回答した学生は、6.8%であった。オンライン授業のこれまでの調査・研究により、デメリットの一つが学生の孤立感・孤独感であると報告されている[13]。孤立感や不安感は、オンライン授業を受講する住居環境(一人暮らしなど)による影響はないのかを疑問が残る。そこで、今回の調査で、学生の住まいと孤立感のクロス集計を行い、住まい(実家で家族と同居、アパートなどで一人暮らし等)と孤立感との関係を確認した(表20)。実家で家族と同居していると回答した学生(191人)のうち、オンライン授業の方が孤独感「感じた(22.5%)」と「やや感じた(25.7%)」であり、アパート等で一人暮らししていると回答した学生(219人)のうち、オンライン授業の方

が孤独感は「感じた (23.3%)」と「やや感じた (22.8%)」である。さらに、学生の住まいと不安感のクロス集計を行い、住まい (実家で家族と同居、アパートなどで一人暮らし等) と不安感との関係を確認した (表21)。実家で家族と同居していると回答した学生 (191人) のうち、オンライン授業の方が不安感「感じた (8.9%)」と「やや感じた (25.7%)」であり、アパートなどで一人暮らししていると回答した学生 (219人) のうち、オンライン授業の方が不安感「感じた (10.0%)」と「やや感じた (26.5%)」である。孤立感と不安感ともに、「家族と同居」と「一人暮らし」の回答者率に大差は見られない。このことは、居住環境に関係なく、オンライン授業に孤立感や不安感を感じている学生が一定数いることを示している。浅賀ら[13]は、ディスカッションを伴う同時双方向型オンライン授業の実施が学生の孤立感の軽減に有効であると述べている。オンライン授業では、同時双方向のディスカッションを取り入れた授業を心がける必要があると思われる。

表20 住まいと孤立感 (回答率)

	実家で家族と同居している	1人暮らし (アパートなど)
オンライン授業の方が孤立感を感じた	22.5% (43)	23.3% (51)
オンライン授業の方がやや孤立感を感じた	25.7% (49)	22.8% (50)
同じくらい	46.6% (89)	47.5% (104)
対面授業の方がやや孤立感を感じた	3.1% (6)	2.7% (6)
対面授業の方が孤立感を感じた	2.0% (4)	3.7% (8)

カッコ内は、回答した人数である。

表21 住まいと不安感 (回答率)

	実家で家族と同居している	1人暮らし (アパートなど)
オンライン授業の方が不安感を感じた	8.9% (17)	10.0% (22)
オンライン授業の方がやや不安感を感じた	25.7% (49)	26.5% (58)
同じくらい	53.4% (102)	51.6% (113)
対面授業の方がやや不安感を感じた	6.3% (12)	7.3% (16)
対面授業の方が不安感を感じた	5.8% (11)	4.6% (10)

カッコ内は、回答した人数である。

4.2.5 成績評価と履修状況

オンライン授業の中で、対面授業と比較して、成績が正当に評価されたと思う授業を聞いた結果では、「同じくらい」と回答した学生が68.9%であり、「やや多い」と「多い」と回答した学生が21.6%であった。成績評価は同じ、又は多いと回答した学生は90.5%であり、オンライン授業で実施した授業の成績評価には不満を持っている学生は少ないと思われる。また、オンライン授業の中で、途中で履修を止めたり、単位取得をあきらめた授業を聞いた結果では、「まったくない」と回答した学生が84.7%であり、「やや少ない」と「少ない」と回答した学生が6.3%であり、90.0%の学生は「まったくない」、「少ない」と回答している。授業を途中で放棄した理由では、学生の半数が、課題を提出しなかったなどの学生側の問題を回答していた。慶応義塾大学の調査[14]において、オンライン授業において途中で受講することをやめた授業（履修取消の手続きをした授業は除く）があると回答した学生は14.9%との報告があるが、山形大学人文社会科学部の学生は、他大学と比較しても、オンライン授業であることに起因する理由で、履修を途中で放棄する学生は少数であったと思われる。

5 まとめ

本研究では、コロナ禍でオンライン授業と対面授業の両方を経験している人文社会科学部の文系学生を対象に、オンライン授業の受講環境、オンライン授業と対面授業の比較、オンライン授業でのリアルタイムとオンデマンドの差異から、オンライン授業における文系学生の意識を調査し、今後の人系学部のオンライン授業の課題を検討した。

オンライン授業環境に関しては、オンライン授業でスマートフォンを主に使用していると回答した学生7.9%がおり、スマートフォンは画面サイズが小さいために講義資料が見づらいことや、使用できない機能があり、オンライン授業を履修する時には、スマートフォンではなく、パソコン(PC)で受講することを学生に周知する必要がある。また、オンライン授業と対面授業の比較に関しては、対面授業の方が学習効果が高いと回答した学生は、オンライン授業は教員とのコミュニケーションや質問がしにくいと回答する傾向にあり、学習効果を高めるためには、学生と教員との双方向性や質問のしやすい環境を構築する必要があることを課題として示した。また、オンライン授業では、学生に学習を促すことで学習成果を確認する必要があることから、レポート等の課題を対面授業よりも多く課す傾向が見られたが、適切な学習量と総学習時間を考慮した学習管理が必要である。

オンライン授業に適していないと思う授業は、「演習・ゼミ(61.3%)」や「語学(61.0%)」であると学生は回答していた。今回の調査対象とした山形大学人文社会科学部(文系学部)の演習では、文献輪講や事例紹介、解説などを行う授業が多い。また、語学の授業では、単に外国語を読む・書けるだけではなく、外国語による言語運用能力(コミュニケーション能力)の向上を目指している。そのため、文系学部の演習や外国語の授業では、教員と学生とのリアルタイムの

対話（ディスカッション）に重点が置かれている。今回の調査で、教員とのコミュニケーションの機会は、オンライン授業の方が、「多い」と「やや多い」と回答した学生は7.0%に対して、「やや少ない」と「少ない」と回答した学生は64.0%であった。対面授業と比較してオンライン授業では、教員との対話（ディスカッション）が十分ではなかったと感じている学生が多く、対面授業と同等の教員との対話を確保する必要がある。さらに、今回の調査から、居住環境に関係なく、オンライン授業に孤立感や不安感を感じている学生が一定数いることが分かった。先行研究[13]では、ディスカッションを伴う同時双方向型オンライン授業の実施が学生の孤立感の軽減に有効であると報告しているが、同時双方向のディスカッションを取り入れた授業の実施が求められる。

オンライン授業の課題として、オンライン授業は対面授業と比較して、学生と教員のコミュニケーションが十分でない場合があり、学生は学習効果の低下や孤立感などを感じている。さらに、文系学部のオンライン授業における演習や外国語の授業では、授業の特性（教員との対話が必要）を考慮した授業方法を選択する必要がある。

謝辞

調査の実施において、人文社会科学部の学生の皆さん、教職員の皆様にご協力を賜りました。心より感謝申し上げます。

註

- 1) WebClassは、日本データパシフィック株式会社が日本の大学向けに開発された学習管理システム（LMS: Learning Management System）である。WebClassには、教材やテストの作成、レポート提出、掲示板、アンケート、チャット、採点、成績データの集計、学習カルテなどの機能がある。
- 2) 令和2年度都道府県別入学者数等一覧表（九州地方）によると、熊本大学の入学者数は、1,709人であり、その内、熊本県出身者は、516名である。
- 3) この論文では、「コロナ禍の学生生活に関する調査」として、人文社会科学部の学生を対象に実施したものであり、コロナ禍での学習、精神的な悩みや心の健康の問題、あなたや家族、自己認識、情報機器使用の環境や身体症状、コロナ禍での活動・経験などの77質問の内から、オンライン授業に関連する質問を主に使用して分析した。
- 4) 山形大学人文社会科学部の授業内容はシラバスを参照のこと。各学部のシラバスは、山形大学HPに公開している。
- 5) 平成29年4月改組の人文社会科学部の設置審査時に文部科学省に提出した設置計画における教育では、「言語運用能力を高めるため、英語は6単位必修（コースによっては10単位を必修）

とすることに加え、英語以外の外国語（独・仏・露・中・韓）4単位を必修とする。」としている。

参考文献

- [1] 高等教育局長：令和2年度における大学等の授業の開始等について（通知），令和2年3月24日，文部科学省，p.1-10,2020.
- [2] 高等教育局大学振興課：遠隔授業等の実施に係る留点及び実習等の授業の弾力的な取扱い等について，令和2年5月1日，文部科学省，p.1-5,2020.
- [3] 文部科学省：新型コロナウイルス感染症の状況を踏まえた大学等の授業の実施状況（令和2年5月20日時点），令和2年5月27日，文部科学省，p.1-2,2020.
- [4] 高等教育局・総合教育政策局：新型コロナウイルス感染症に係る影響を受けた学生等の学生生活に関する調査等の結果について，令和3年5月25日，文部科学省，p.1-5（別紙1-1～4-2），2021.
- [5] 大学教育統括管理運営機構：2020年度前期の遠隔授業等に関するアンケート調査（学生調査）結果報告，熊本大学，p.1-12,2021.
- [6] 辛島光彦：コロナ禍対応のオンライン授業に対する理系学生の意識調査——文系学生の意識調査との比較——，東海大学紀要情報通信学部，第14巻1号，p.1-9,2021.
- [7] 中京大学：「オンライン（遠隔）授業」受講の準備について（お願い），中京大学，p.1-2,2020.
- [8] 仁愛大学：遠隔授業を受けるための準備について，情報ネットワーク管理室，p.1-4,2022.
- [9] 薦田奈美：授業内における「共同体」の役割：対面授業とオンライン授業，言語科学論集，第27号，p.35-53，2021.
- [10] 浮田直哉，加堂大輔：双方向型オンライン授業の実現に向けて——インタラクティブな環境構築とその実践——，埼玉工業大学教養紀要，第38号，p.5-17,2021.
- [11] 仙波浩幸，清水和彦：学生の集中力を高める講義の要件とは，第50回日本理学療法学会大会抄録集，P1-B-0359,2015.
- [12] 豊田哲也：コロナ禍における遠隔授業の実施と学生の学習意欲——徳島大学学生へのアンケート調査結果から——，大学教育研究ジャーナル，第19号，p.36-51，2022.
- [13] 浅賀圭祐，小原一仁，高平小百合：コロナ禍におけるオンライン授業の方法と学生の孤立感——学部における授業評価アンケートの分析から——，玉川大学教育学部紀要，第21号，p.1-11,2021.
- [14] 日吉キャンパス7学部・日吉学生部：慶応義塾大学日吉キャンパス オンライン授業の受講状況に関するアンケート調査集計結果報告，慶応義塾大学，p.1-19,2020.

Humanities Students' Perceptions and Challenges of Online Classes During the COVID-19 Pandemic: A Comparison Between Online and Face-to-Face Classes

Kaoru HONDA

In this study, we surveyed humanities students in the Faculty of Humanities and Social Sciences who have experienced both online and face-to-face classes during the pandemic. The survey investigated the students' perceptions of online classes in terms of their learning environment, and made a comparison of the differences between online and face-to-face classes, and between real-time and on-demand online classes. The study also explored the challenges of online classes in the humanities and social sciences.

